



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2019年10月13日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:5名(うち子ども0名)、

指導員:4名

テーマ 「赤トンボを見よう」

先月に続き、台風通過後の観察会となりました。そろそろアキアカネが山から戻って来る頃なので、テーマは「アカトンボ」です。

近年、アキアカネはめっきり数が減ったと言われていますが、上空を見るとウスバキトンボに混じってアカトンボらしい姿も見られます。堤防道路の脇のロープに止まっているアカトンボを捕まえてみたら、アキアカネの♀でした。胸部の黒条模様をルーペで見て、ナツアカネとの違いを確認しました。

高水敷の林縁にはマユタテアカネのみかいました。これも捕まえて、尾の先端(尾部付属器)が上向きに反っていることを確認しました。よく似たヒメアカネは、この部分が反り返らないことで区別できます。マユタテの名のもとになる顔面の眉斑(目と口の間にあるので、鼻の穴のようだという人もいます。)もじっくり見ました。

過去には他にナツアカネ、ミヤマアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボが見られましたが、この日見られたのはアキアカネとマユタテアカネの2種で、あとはアカネ属以外のウスバキトンボが見られただけでした。

チョウでは渡りをすることで知られているウラナミシジミが見られました。この辺りでは秋になると渡って来て数が増えます。同じく渡りをするアサギマダラは昨年は見られましたが、今回は出現しませんでした。(10/9の下見の時には確認できました。)

大野極楽寺公園では南方系のチョウで生息域を広げているムラサキツバメが見られました。ここには幼虫が食べるマテバシイが植えられているので、繁殖しているものと思われます。

植物ではキダチコンギク、セイタカアワダチソウなど、キク科の植物が目立ちます。この日は、コセンダングサと、同属のアメリカセンダングサ、コバノセンダングサの花、実、葉の形を比べてみました。ついでに、新顔のオワリセンダングサ(種名にオワリについても外来種で、途中の岩倉で採ってきたもの)も紹介しました。

大野極楽寺公園では、まだヒガンバナが花径を伸ばして咲こうとしているものがあり、キンモクセイは蕾が膨らんでいました。どちらも今年は花の時期がずいぶん遅いように感じます。10月になっても非常に強い台風が上陸するなど、気候変動が進んでいるようで、それに伴い生物季節も変化しているのではないかと心配です。(齋竹)

<その他観察できたもの> 花:ブタナ、アキノノゲシ、オオフタバムグラ、メリケンムグラ、メドハギ、アレチヌスビトハギ、ツリガネニンジン、ミズヒキ、ツククサ、アレチハナガサ、ヒメクマツツラ、ホシアサガオ 鳥:トビ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、コゲラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 昆虫:モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマクロヒョウモン、トノサマバッタ、コバネイナゴ、ハネナガイナゴ、ツツレサセコオロギ(声)、エンマコオロギ(声)、ササキリ類



(コセンダングサを観察中)



アキアカネ♀
(♀はあまり赤くない)



マユタテアカネ♂
(よく見ると面白い顔面)



ウラナミシジミ
(どこから渡ってきたのか?)



コバノセンダングサ
(葉が細かく切れ込む)